

平成26年2月定例県議会（本会議）における答弁要旨

（質問日：平成26年2月25日）

質問者 民主党 田中 信行 議員

質問要旨	答弁要旨	答弁者
<p>10. 教育問題について</p> <p>(1) 少人数学級の見通しについて</p> <p>ア 県議会で採択されている少人数学級の実現を求める決議に対して、県教育委員会はどのような取組をしてきたのか。</p>	<p>1 少人数学級の実現を求める決議については、県議会において、全会一致で採択されたことであり、県教育委員会としても大変重く受けとめております。</p> <p>2 少人数学級については、平成16年度に小学校第1学年と第2学年で38人学級編制を実施して以降、国から措置される定数を活用して、段階的に推進してきたところです。</p> <p>3 本年度は、35人学級編制を標準とする小学校第1学年の他、小学校第2学年、中学校第1学年で35人以下学級、その他の学年では38人以下学級を可能としております。</p>	<p>教育長 瀧本 寛</p>

平成26年2月定例県議会（本会議）における答弁要旨

（質問日：平成26年2月25日）

質問者 民主党 田中 信行 議員

質問要旨	答 弁 要 旨	答 弁 者
<p>10. 教育問題について</p> <p>(1) 少人数学級の見直しについて</p> <p>イ 学級編制が県教育委員会の同意から届出制になったことにより、地域格差は生じていないのか。</p>	<p>1 小中学校の学級編制については、県教育委員会が定めた基準を標準として、市町村教育委員会が、児童生徒や施設など学校の実態を考慮して行うこととなっています。</p> <p>2 県内では、現在のところ、市町村が独自に教員を配置して、県の基準を下回る少人数学級を実施しているところがないことから、少人数学級における地域間格差はないものと考えます。</p>	<p>教育長 瀧本 寛</p>

平成26年2月定例県議会（本会議）における答弁要旨

（質問日：平成26年2月25日）

質問者 民主党 田中 信行 議員

質問要旨	答弁要旨	答弁者
<p>10. 教育問題について (1) 少人数学級の見直しについて ウ 今後、本県において、更なる少人数学級の推進にどのように取り組んでいくのか。</p>	<p>1 本県における少人数学級については、小学校の低学年や環境が大きく変わる中学校第1学年など、児童生徒の発達段階に応じてきめ細かな指導を必要とする学年から段階的に取り組んできたところです。</p> <p>2 教職員定数は、国が措置することが基本であることから、今後も、国の動向を見極めながら、可能な限り少人数学級の推進に努めてまいります。</p>	<p>教育長 瀧本 寛</p>

平成26年2月定例県議会（本会議）における答弁要旨

（質問日：平成26年2月25日）

質問者 民主党 田中 信行 議員

質問要旨	答 弁 要 旨	答 弁 者
<p>10. 教育問題について (2) スクールカウンセラーの全小学校配置をどのように実現させていく考えなのか。</p>	<p>1 県教育委員会では、いじめ、不登校の早期発見、早期対応や、暴力行為などの問題行動の低年齢化に対応する観点から、スクールカウンセラーの小学校配置は、重要であると認識しており、平成26年度、新たに、小学校35校に配置することとしております。</p> <p>2 今後の配置については、スクールカウンセラーの人材確保などの課題を踏まえつつ、配置の状況やその効果を見極めながら、検討してまいります。</p>	<p>教育長 瀧本 寛</p>

平成26年2月定例県議会（本会議）における答弁要旨

（質問日：平成26年2月25日）

質問者 民主党 田中 信行 議員

質問要旨	答 弁 要 旨	答弁者
<p>10. 教育問題について (3) 学校週5日制について、県はどのような見解をもっているのか。</p>	<p>1 学校週5日制は、子供の家庭や地域社会での生活時間の比重を高め、学校・家庭・地域社会が相互に連携しつつ、子供たちに社会体験や自然体験などの様々な活動を経験させ、「生きる力」をはぐくむものであり、その基本理念は引き続き重要であると認識しております。</p> <p>2 県教育委員会としては、子供たちの「生きる力」をはぐくむために学校や地域における多様な学習、文化やスポーツ、体験活動など、これまで以上に豊かな教育環境づくりに努めてまいります。</p>	<p>教育長 瀧本 寛</p>